

会議録

会議の名称	西東京市公民館運営審議会平成21年度第11回定例会会議記録
開催日時	平成22年2月24日（水曜日） 18時30分から21時10分まで
開催場所	田無公民館 第2学習室
出席者	<p>会長：森忠 副会長：渡辺文子 委員：西嶋剛昭、定盛秀俊、千葉桂子、古賀節子、柴山隼、大島眞之、福島憲子、加藤真理 職員：相原館長、山本主幹、近藤係長、寺嶋分館長、小笠原分館長、玉木分館長、小林分館長、公民館専門員（小幡、山本、保谷）</p>
欠席者	中嶋美沙子、須磨田純子、萩原建次郎、上田幸夫
議題	<p>(1) 第10回定例会の記録について (2) 報告事項 1 行政報告 2 事業計画書・報告書について 3 公民館だより編集室報告 4 都公連委員部会運営委員報告、同研修会報告 (3) 協議事項 2010年度西東京市公民館事業計画（案） (4) 事務連絡及び情報交換 (5) 次回の日程について</p>
会議資料の名称	<p>(1) 事業計画書 1 ムービールーム柳沢（柳沢） 2 乳幼児をもつお母さんのための講座「ひとりでがんばらないで」（柳沢） 3 子育ては自分育て塾（芝久保） 4 谷戸まつりにおける公民館主催事業（谷戸） 5 健康講座「経絡リンパマッサージ」（ひばり） 6 子ども陶芸講座「世界に一つの器を作ろう」（駅前） (2) 事業報告書 1 地域で創る教育ネットワーク講座（芝久保） 2 大豆びな講習会（芝久保） 3 親子料理教室「お父さんと手打ちうどんに挑戦しよう」（駅前） 4 AEDの操作と応急手当講習会（駅前）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input type="checkbox"/> 有り（人） <input checked="" type="checkbox"/> 無し
会議内容	
<p>(1) 第10回定例会の記録について ○副会長： 記録の修正についての申し出等を確認する。</p> <p>○職員： 特になし。</p> <p>○副会長： 配付した記録のとおりとする。</p> <p>(2) 報告事項</p>	

1 行政報告

○副会長：

報告を受ける。

○館長：

1点目は平成22年度当初予算について。公民館費は2.7パーセントの減、3億6,100万余円を議会に提案している。職員人件費の減額と谷戸公の出張所改修工事費がなくなったことが主な減額の要因といえる。今年度の大きな工事は、柳沢公の駐輪場の整備費と芝久保公の屋上防水工事費だ。

2点目は、教育委員会表彰について。今年は、2団体、26人を表彰し、その中で、元公運審委員の武田雅子氏が5期9年間の実績により受賞された。

○副会長：

質疑を受ける。特になければ終結する。

2 事業計画書・報告書について

○副会長：

質問・意見を受ける。

1点確認したい。ひばり公の健康講座だが、この内容であれば直ぐに定員を満たすことと思うが、講座終了後の活動についてだが、例えばグループ化するなどの動きはあるのか。

○職員：

この講座に関してのみ回答すると、グループ化は考えていない。この講座に参加して、個々人が健康に対して振り返り、日々の生活に役立ててほしい、という趣旨の内容になる。

○委員：

1点目、柳沢公の女性講座「1人で頑張らないで」というタイトルは非常に良いと思う。目的や学習内容を見ても、子育て世代の母親に対し、講師が具体的な課題について語っていくコースかと思うが、こうした専門家の中に、実際に子育てに関わった経験者の話があると良いのではないかと思う。孫を幼稚園に送っていくことがあるが、そうした折に若い母親と付き合う機会があり、そこでの会話からの感想だ。

2点目、芝久保公の女性問題講座の方が子育てに特化しているようで学習内容が分かりやすい気がするが、目的欄に書かれているグループ化も結構だが、継続的な学習活動につながるようにしてほしい。

3点目、駅前公の親子陶芸だが、楽しそうな実技でよい。ただし、平日の14時から16時であるが、対象の幼児から小学生はこの時間に集まることは可能か。また、どこかに出前で教えることはできないのか。

○職員：

柳沢の子育て中の女性対象講座は、いずれも長期にわたって行う。今回も計11回の学習内容になるが、話し合い、相互学習の形態を中心に進める。まずは同じ世代の人と、そして講師や担当職員などとの関わり、また保育室の保育員も子育て経験のある女性ばかりであり、間接的にはあるが質問の趣旨に沿う部分は必ずある。

○職員：

芝久保では、現在講座が終了した後の女性グループが5つ活動している。毎年のように講座が終わるとサークル化が決まる。例えば、講座内容にもあるリトミックを目的とした活動になるということも考えられる。講座後の活動内容については、参加者で作ったグループが自ら考え出すために、館側は自主性を支援したい。講師の林田氏はグループワークづくりの専門家であり、質問にあったような

継続的な学習につながる示唆を含めて関わってくれるが、意図的な考えを持たずに進めていきたいと思っている。

○職員：

母親と幼児が中心の活動である。館には陶芸窯がないので、講師の自宅で焼き、2回目に鑑賞をするという内容の講座だ。

○委員：

柳沢と芝久保の2件の女性対象講座は、いずれも子育て関連の講座だ。一昨年、公民館における子育て支援に関する答申を館長に提出しているが、今回の保育付講座の内容・目的の中には、「地域の中での子育て環境づくり」という答申の中心的なテーマが読み取れなく残念に思う。公民館保育室のあり方を問われる内容となるので、意識してほしい。

○委員：

同じく柳沢と芝久保の講座のことになるが、内容は大変良いものと感じるが、なぜ同じ時期に行うのか、双方に参加してみたいと思う市民が出られなくなると思う。

○職員：

保育付の講座は、1市民当たり年間1回の受講ということで制限している。したがって、同じ時期に開催することには支障はない。

○副会長：

質疑を終結する。

3 公民館だより編集室報告

○副会長：

報告を求める。

○委員：

2月号の反省。1面は文字が多過ぎたという難点があった。写真を何とかレイアウトすべきだった。

3月号1面はひばり公の音楽コンサート。このためサークル紹介「TANASHIソーラン会」は3面になった。

4月号1面は谷戸まつり、サークル紹介は芝久保公の「木工クラフト」。5月号1面は、田無公民館まつり、サークル紹介は「ガルポ・デ・エスパニョール」。

来年度の紙面構成はほぼ今年同様に進める予定だ。ライター入門講座は2010年度も実施し、その中から市民委員を探す工夫をしたい。また、穴埋め記事の用意についてだが、編集委員全員が常に意識をして用意し、いざというときに備えることになる。また、編集後記を掲載してはどうかという意見も上がっている。

編集室の会議の持ち方であるが、毎月のレイアウトに追われるばかりの会議とは別に、3ヶ月に1回程度は、じっくりと方針についてなどを話す機会を持ってみたいという意見が上がっている。また、編集委員の補充に伴い、公運審からの要望により編集会議の夜間実施について検討したところ、従来の編集会議を夜間開催とし、さらに職員のみによる打合せを昼間に行うことに変更になった。

○副会長：

質疑を受ける。特になければ終結する。

4 都公連委員部会運営委員報告、同研修会報告

○会長：

2月21日の研修会出席者の報告を含めて、報告を求める。

○委員：

国分寺市本多公の地域会議の事例は、西東京市には大変参考になった。多摩市永山公の担当エリアは大変広域で、そこで行われるフェスティバルについての報告だったが、永く住んでいる住民と新住民との共同によるイベントの実施模様には興味を持てた。まつりの内容そのものは大規模なフェスティバルであり、大きなエリアを担当する公民館という趣旨にあっていていると思った。逆に、西東京市の公民館は、それぞれの地域に即した活動があり、そのよさも実感できた。

○委員：

多摩市のコミュニティーセンターと公民館の関係については参考になった。事例報告者の発表もさることながら、その後のグループ討議のときに、多摩市の公運審会長がおり、より具体的に質問ができたことは収穫である。特に、都公連に加入していく意義について話しが及んだが、今回のように、具体的な事例について情報交換ができる場、ということは絶対に必要であることをお互い確認した。

○委員：

私の所属したグループには、発表した多摩市の館長が参加してくれたので、永山公の具体的な話しを直接聞いた。永山のフェスティバルには、公民館の関係者ばかりではなく、駅前の商店街が大きく関わっている。予算の規模も市が180万円、商店街が250万円を負担するという大変高額な予算が動いているようだ。私は、社会教育の側面について質問してみたが、公民館は実行委員会を支援する立場にあり、普段の公民館活動にも実行委員の人々が講座の講師になったりすることで、つながりを密にしているため、当日の集客にもつながるといふ。社会教育の側面で携わることが必要で、普段の事業運営からでも社会教育的にかかわること、職員はその視点を持つことが大事だと話されていた。

他市の事例を導入することはできないが、自らの考えをまとめるための大変良い機会であったと感じた。

○委員：

グループ討議が中心の研修会であったが、参加している委員の期数がまちまちであり、新任の委員にすれば出てくる言葉全てが疑問になってしまう。私のグループでは、用語の解説に時間を割かれてしまった。例えば、事例発表に出てきた「コミセンと公民館」とはどこがどう違うのか、「指定管理者」とは何のことなのか、それがどのように各市の公民館に影響が出るのか、という個別の話題になってしまう。討議する具体的な話題を絞らないと、疑問に対する受け答えで時間が過ぎてしまった感がある。当日は、7グループもあったのだから、例えば「生涯教育に必要な人材」「公民館の職員とその数」「公運審の協力度合い」といったような具体的な話題について時間をかけて話し合わないといふと収拾が付かない。方法は良かったと思うが、もう一工夫を要望する。

○委員：

本日、運営委員の反省会があった。当日の参加者は13市46人。事例報告は国分寺市、多摩市、西東京市で、特に助言者のまとめもなくグループ討議が行われた。

当市の公共予約システムについては、他市からは大変多くの質問を受けた。永山公の館長の事例報告にあった、市民からの要望に対して職員は「ノー」という答えを用意しようとしなくて、何とか「実現しよう」という発想を持つべきだといふ言葉が印象に残っている。当日、私のグループでは、西東京の事例に端を発し、施設の利用状況についてが話題に上った。東村山市からの報告に、有料化が実施されたところ、大きく施設利用率が下がってしまったといふことを聞き、おどろいた。同じく有料化が話題になっている小平市の委員も興味を持って質問していた。いずれにしても、参加者には公民館の大切さは伝わった会になったと自負している。

○委員：

当日委員部会長が発言していた各市の公運審の実態調査アンケート結果は本日配付はないのか。

○職員：

大変大量の頁数のために配付は避けたが、希望者にはコピーしたい。

○副会長：

他に質疑なければ終結する。暫時休憩する。

(19時15分休憩)

(19時25分再開)

○会長：

会議を再開する。

(3) 協議事項

2010年度西東京市公民館事業計画（案）

○会長：

本日は、先月の確認に従い4頁の事業方針・重点事業を中心にして議論してほしい。

今回の計画の特徴は、公民館専門員の研修としてこの文面をまとめたことだと思う。研修に関わったそれぞれの職員が、今の公民館に何が不足していて、何が必要なことなのかという視点に立ち、ゼロベースで原点に戻って議論したと聞いている。

まずは各館の事業方針を聞き、計画書の文面に疑問に思うことなどを中心に質問等してほしい。

○職員（柳沢公）：

来年度の柳沢公は、重点事業中、ロビーの活用、利用者懇談会の充実、より主体的な学習に向けた事業の組み立て、の3点に力を注ぎたい。

1点目、もともと大きなロビーがあるという特徴を生かしたいと考えた。これまでは、市民の作品展示での利用がほとんどであったが、これを、市民利用の薄くなる8月・2月を中心に、公民館の活動の様子が展示できるよう工夫したい。このことが、新たな利用層の確保につながればと期待している。

2点目、今年度も利用懇の活性化に向けて努力してきたが、より以上に回数をふやしていきたい。まずは年2回の懇談会だが、3月の懇談会は団体連絡箱の調整に目が奪われ、身の入った議論ができない。調整会議と懇談会を分けて、例え100人規模の集会から20人程度に少なくなったとしても、じっくりと話し合える態勢で臨みたい。具体的には、参加者を少人数のグループに分け「公民館利用で困ったことはありませんか？」というような、1つのテーマに沿って議論を深めたい。そのときには、進行役を公運審委員に依頼する予定だ。

また、陶芸グループ単位とか、女性の学びグループ単位とか、学びの種類ごとの懇談の場も用意してはどうかとの話も出ている。ぜひ、実現していきたい。

最後の主体的な学びについてだが、これまでの柳沢公の事業展開の流れに従い、できる限り利用団体や都営自治会の住民に協力を仰ぎつつ、公民館講座の企画に心がけていきたいと思っており、これを継続していきたい。

さらに、1つだけだが、準備会を持って課題を探る講座にも挑戦したいと考えている。以上だ。

○職員（田無公）：

来年度も今年度同様「人が集い、情報が行き交う場」をテーマに利用者との交流を図りたい。

なお、次の5点を柱に事業を実施したい。

1点目、あめんぼ青年教室のなご一層の飛躍を目指したい。今年度、35年を迎えたこの教室は、青年たちの自主性の尊重を第一に活動している。また、地域住民との交流を目的にした、公民館まつり

等へ積極的な参加を心がけながら、これからも温かく見守っていききたい。

2点目、地域の外国人との交流を深めていきたい。これに伴う講座も、人間関係の結びつきや互いにつながりあえる仲間作りを目指した内容にしたい。

3点目、公民館利用者とのコミュニケーションを積極的に図るためのロビーの活用。田無公民館まつりがきっかけとなった、サークルかみふうせんによる「折り紙の集い」だが、季節感ある「折り紙」がロビーを利用する人の目を楽しませている。次年度もさまざまな市民活動をバックアップしたい。

4点目、団体だけでなく、個人利用に対する手段に工夫を凝らしたい。例えば、田無公民館まつりでは、近隣の学校との連携を深め、まつりを地域に根付かせることを目指したい。アニメ産業や人形劇団のような芸術文化団体とともに連携を図る取り組みを進めたい。

最後は、地域の子どもの文化の振興を図りたい。人形劇サークルの発表等を通じて親子で楽しみ、豊かな感性を持つ子どもたちに、より良い機会を与えていきたい。

○職員（芝久保公）：

来年度の芝久保公の基本的考え方は、次の4点になる。

1点目、芝久保公は住宅地区に位置し、他の館に比べ交通機関の便もよくないが、一方、実はそれらの要素が地域の個性を作っているともいえる。前向きに捉えれば、地域の人と職員が他の地域に比べ、より親密な関係を構築できる可能性が高い地域でもある。よって、職員は、住民との丁寧な対話・交流を通じて地域課題を模索しながら、公民館として地域に対して新たな提案を行うことを今年度も挑戦したい。そのことで、新しい利用層の開拓にもつながることを目指したい。

具体的には「利用者懇談会」「陶芸窯サークル懇談会」は当然のこと、「芝久保公民館利用者連絡会の会議」「小中学校の運営連絡協議会」などに参加することで、地域の人たちとの交流を深めながら、一方「教育ネットワーク講座」などで地域の人材作りに取り組み、地域課題の掘り起こしを積極的におこなうことで、より主体的な学習に向けての事業の組み立てをしていきたい。

2点目、開館以来地域住民の方々と長い歴史の中で作り上げて続けてきた「平和を考える講座」や地域交流事業としての「芝久保公民館まつり」を継続しながら、さらに住民との協働を発展進化させていくこと。

3点目は、芝久保公の施設特色を生かした創作活動の充実。具体的には、現在創作室は10の陶芸サークルに利用されているが、陶芸以外の創作講座を開催し、幅の広い市民の創作活動を支援する。ちなみに、22年度は、スタンドグラス講座を開催したい。

4点目、ロビー利用の充実を図りたい。ロビー利用については、住宅地ということもあり、地域の小・中学生が日常的に頻繁に活用している。また、ロビーに常設のガラスケースの展示コーナーを活用した「小さな展示会」事業もロビー利用者の交流の場になっている。来年度も「小さな展示会」と主催講座の作品展示の実施を通じて利用者同士の交流を促したい。

○職員（谷戸公）：

来年度の谷戸公は、公民館の重点事業に沿って人と人のつながりや、地域の活性化を求めていくために「まずは職員からの挨拶」をテーマに取り組んでいきたい。

この点はこれまでも力を入れてきたことだが、今まで以上に職員自らが積極的に利用者・来館者に、挨拶を基本とした声掛けを行い、それを機会に地域課題や情報を収集することで公民館運営を活性化したい。改めて地域や利用者との信頼関係の再構築に努めたいと思う。

そのためには、職員は事務室内に居るだけではなく、時間があればロビーを初め館内に出ることで、市民との交流の場を求めていきたい。それら利用者との普段の会話の中にこそ、貴重な意見があり情報もあるはずだ。利用者懇談会に出席できない、出席しても発言ができない人も多い中、日頃の会話や交流の中で得た意見や情報を職員が持つことも大切であり、特定の団体や個人に限らず幅広い来館者の言葉を拾い集めていきたい。

特に谷戸地区は、谷戸まつりがあることから地域への帰属意識が強く、館内を問わず職員が施設周辺を歩いても、挨拶や会話が必要とされるところである。

谷戸公民館の利用者や地域の住民が求めている「職員は地域の顔であってほしい」という願いに応えるべく、公民館と利用者の壁を作らないような言葉のキャッチボールに積極的に取り組み、地域や利用者の期待に沿えるよう取り組んでいきたい。

また、公共予約サービスのシステム化によって人と人とのつながりや、公民館と利用者とのかかわりも希薄になったとの指摘がある中、待つだけではなく職員が積極的に動き、共に考えながら、利用者・地域とのつながりを来年度はより強固なものとしていきたい。

○職員（ひばり公）：

来年度は、重点事業の5項目について手をつけていきたい。

1点目は、公民館を拠点とした市民参加型の事業の展開についてだが、今まであまり積極的とは言えなかった点だが、来月実施されるフェスティバル事業を拡充し、地域づくりの視点を持ったものに育てていきたい。

2点目は、新しい利用層の確保については現在計画中であるが、親子や青年の利用をふやしていきたいと思っている。これは、近隣に大型マンションが林立し、若い所帯がふえることが想定される。その意味からも、親子や青少年に力を入れることで公民館の存在を示していきたい。

3点目は、より主体的な学習に向けた事業展開だが、相互学習やワークショップを多く取り入れた事業を充てたい。9頁のロハス講座、女性問題講座、セカンドライフ講座など継続しながら、今年の内容をより密度を濃くしたい。以上だ。

○職員（駅前公）：

開館して2年が経つが、まだまだ施設の利用方法を緒に、利用者登録の状況をもみても、住吉からの過渡期であり落ち着いたとは言えない。次年度の駅前公の方針は公民館全体の重点事業は踏まえてはいるが、住吉公の伝統を引き継ぐ内容だ。

まず「積極的なロビー活用による市民交流の場づくり」に関してだが、多くの方が夜遅くまで利用しているものの、公民館利用者以外も多く出入りしている。来館者全員が気持ちよく利用するための基本的なルール作りとその周知も必要と考えている。

次に「情報提供機能の有効活用」に関してだが、毎日のように「サークルを紹介してほしい」「会議室を利用したい」という方が窓口に来館し、中にはごみ処理や市民課への問い合わせも受けている。できる限りの情報を知らせて、丁寧な対応をする中で、感謝の声も上がっている。4・5階ロビーに設置したチラシ用のラックや掲示板等を効果的に活用して、必要な情報を提供できる場を作りたい。

3点目の「新しい利用層の開拓」だが、駅前公では夜間講座を多く開催し、勤め帰りの市民から「この時間だから参加できた」、幼児のいる母親からは「夜だから子どもを夫に預けて参加できた」との感想も得ている。来年度も勤労者を含めたさまざまな層の方が参加しやすい講座を引き続き実施する予定だ。若い世代対象としては、平日夜間と土日に労働に関する問題を取り上げていく予定だ。また、保谷駅直結ということで幼児連れの市民も立ち寄り関係から、親子で一緒に参加できる講座への要望が強いために、親子講座を幅広い内容で実施したいと考えている。

4点目の「より主体的な学習に向けての事業の組み立て」に関しては、市財政が厳しい現状では、公民館でこそ実施しなければならない講座の質がますます問われることになる。カルチャーセンターや大学でも幅の広い多くの講座が行われているが、市民自らが学ぶことで地域に目を向けて、まちづくりを進めることを掲げた公民館ならではの講座を目指したい。これまでの財政学講座を通年で実施する「財政学校」のように再編して、より発展した講座を予定している。今年度実施した女性講座、樹木に親しむ講座などには、初めて公民館講座に参加した人が多く、徐々にではあるが、公民館の存在が地域に知られるようになってきている。新しく取り組む講座として社会人のワークスタイル関係の講座、住民参加条例、青少年にインターネットの危険性を学習する講座などを予定している。

最後の「利用者懇談会の充実」だが、駅前公では昨年に分野別の懇談会を開催したこともあり、一方的に苦情や意見を言うだけの会ではなく、参加者同士の意見交換になるような会を目指したい。それには、2回目を迎えるジョイントコンサートのような、利用サークルの発表の機会をふやし、サーク

ル同士の交流が必要と考える。登録団体数が多いため、部屋が取れない現状では、定着した活動も難しく、交流を育むこと自体が困難になりつつあるが、公民館の部屋を単に借りる、貸すだけの関係ではなく、互いが交流して地域に目を向けていくようなつなぎ役としての役割を、職員が担うことが必要と考える。地道な、力量を問われる職務だが、窓口対応や利用者懇談会等を通じて利用者とコミュニケーションを図っていくことが、公民館職員のなすべき責務だと考えたい。

○会長：
質疑を受ける。

○委員：
利用懇の充実をかかげている館が多い、大事な会であるが、まずは参加者をふやすことと単なる苦情の受付先にならないようにする工夫が必要と思う。そのためには、せっかく出した意見がどう処理されたのか、それを回答することをしてほしい。必要に応じては、どのように検討したのかを掲示してはどうか。市民から「この問題は既に何年もお願いしているが…」といったことを言わせないようにしてほしい。

○会長：
職員側も鋭意工夫はしているものと思うが、改善に向けて努力してほしい。

○職員：
既にどの館でも、直近の懇談会で出た施設改修等についての意見は、できなければ、なぜできなかったかは説明しているはずだ。しかし、残念ながら優先順位の中でできなかった、または大きな改修工事になると計画的に執行すると答えたにもかかわらず、意見を無視したと指摘されるケースもあり、半年に一度同じ事を指摘されると、「何年もお願いしているのに…」という発言につながるのかとは思ふ。

○委員：
職員がどのように施設管理を考えているのかの現われだと思ふ。どのように工夫すれば気持ちよく使ってもらえるのか、そうしたことを話し合う場にすべきだ。相互に意識が変わるきっかけになる場だと思ふ。とにかく、次につながる場にしてほしい。

○職員：
趣旨は理解できるので、努力したい。

○委員：
事業方針の四角で囲まれた項目に、地域の中の館であること、地域の中に存在し続けること、という言葉が明確に示されていることがすばらしいことと思ふ。専門員として、館に関わってきた熱い思い等を伝えてほしい。来年度の抱負を聞きたい。

○委員：
分館長の報告で、各館の意欲は感じた。心配なのは、嘱託員と職員との関係であるし、来年度は何か予算が確保できたとの館長報告があったが、2011年度は本当に公民館として継続可能なのか。継続して地域に根付かせることが必要なところで、館長には、しっかりと職員の配置を考えてほしい。嘱託員には、地域に根ざすという意識や気持ちを聞かせてほしい。

○職員：
2010年度の方針に込めた思いだが、各地の公民館の存続が危ぶまれる中で、私は市民にとって大切な施設であると自負している。まずは公民館がどうあるべきかという考えで議論をスタートさせた。

日々の勤務の中で見過ごされがちな課題や今何が足りないのか、ということを経験者全員が数多くの意見を出した。それを付箋に書き記してグループ化しながらまとめる作業を続けた。あわせて、2008年の公民館事業の見直し検討会議の考えも蓄積になったと考えている。公運審でも確認された事項が絵に描いた餅にならぬよう、検討材料に含めた。さらには、その前提にある2005年の新しい公民館・図書館のあり方検討会議の答申も参考にしている。

個別の事業においては、カルチャーセンターには取り入れることのできないような事業をPRしたかった。こうして書面にするだけでなく、実際の計画の中に取り入れることで、市民と主体的に関わっていききたい。まだまだ工夫をしなければならない点があると思うので、ぜひ私たちの考えに対する意見を欲しい。より良いものにしていきたい。

○職員：

今回の研修に加わり考える折に、見直し検討会議の議論の中で学んだ三多摩テーマも意識しながら発言をしてきた。事業方針に込めた思いという点で、特に3のより主体的学習について述べたい。

個人的な意見だが、各分館長も述べてはいるがより主体的な学びとはどういうことなのか。実はこれまでの計画でも訴えてきたところであるが、受身な受講姿勢の市民がふえていると感じてきた。

こうした点から主体性を喚起する必要性を感じ、その具体的な方法を明記するために、1つが事業構築のプロセスを市民と共同すること、もう1点はワークショップ型の事業に積極的に取り組むことなどを通じて主体的な学びにつなげていきたいと表現してみた。ただし、主体性を喚起するという表現は抽象的なので、より主体的という表現にした。

○職員：

このことに関わられたことを真摯に感謝している。公民館とのかかわりも長く、自分の講座を組む際には毎回目標設定をしてきたが、公民館の基本的な目標との乖離を感じたりもしていた。こうしたことも、計画作りの作業に関わり文章を推敲するうちに、自らの事業を振り返る機会になった。

そもそも事業計画の策定作業を専門員の研修として行うことに疑問を感じていたが、専門員同士で議論し、疑問点を共有し、言葉の蓄積も徐々にではあるがふえたために計画策定も何とか進んだ。この計画は、どこかの参考図書の中から引用してきたものではない、職員の生の声の集約だ。直接的には専門員研修で行ったが、全職員の助言も受けながら、結果的には楽しく参加できたと思う。

○職員：

障がい者学級を担当している。田無公には、毎日のように福祉作業所の勤務帰りに立ち寄る人がいる。地域の活性化についてだが、家と学校、家と職場だけの往復では地域との交流は少なくなると思う。その1つの場として、ふらっと立ち寄れるロビーがあるというだけで公民館は役立っているのだと思う。

こうした思いなどを全専門員がグループ分けしながら考えをまとめた。言ってみれば各館の事業を積み上げた6館のデザイン作りであった。そうした意味では4頁は6館の考えをまとめ、その取り組みを示した。従来の計画書は各館の事業についても館別表記であったが、事業方針に沿うことを示すために敢えて対象別に並べた。それを補うために、最終頁のカレンダーは、館別の表記に工夫してみた。

実際に事業を行う際にも、方針に沿った内容に意識して欲しいと考える。

○会長：

一言一言が重いものと思う。もっともっと我々も熟慮して関わる必要性を感じた。

○委員：

前向きで意欲的な内容であり、良い計画だと思うが、1つ提案がある。

利用者懇談会は毎年行われるが、全登録団体から見れば1割にも満たない出席率と思われる。そこに来て、意見を述べられる人は館側に伝わるから良いのだが、出てこない、または出られない団体に

こそ貴重な意見が潜んでいるのではないかと思う。出席しない理由もさまざまあろうが、そうした人々への案内を講じてほしい。要するに、団体の後ろには市民がいるということで、その営みが新しい市民層の開拓という課題解決にもつながるかもしれない。出たくないという人を引き出すのは難しいことと思うが、何とか意見を吸い上げる工夫をしてほしい。

○委員：

囑託員の意見は大変頼もしく感じた。今日は、専門員の顔を直接見ながら話しができるので大変有意義だ。これからも出席してほしい。

それぞれの館は、施設の特長を生かした事業や貸し出し方への工夫が必要と思う。もっと特徴をアピールしてはどうなのか。

○委員：

谷戸公の特徴は視聴覚機能と思うが、16ミリ映写機の技能講習はどうなるのか。

○職員：

視聴覚室に備え付けの映写機2台と、各館から預かっている5台の検定が必要だ。操作研修を今年も予定しているが、参加者はめっきり少なくなっている。いずれにしても、機械の部品がなくなると修理も不能になる。

○委員：

このまま続けるつもりか。

○職員：

先が見えてきている事業だと思う。ただし、アナログの良さを伝えたいという意見もあり、続けられる範囲で事業化したい。

○委員：

駅前公ではAEDの講習会を行うが、身近な安全対策として自転車の使い方について指導できないのか。特に、保谷駅前には自転車で通うことも難しい環境にあると思う。事故も心配である。自転車の事故は、被害者にも加害者にもなり得ることだと思う。公民館として取り上げられないか。

○職員：

自転車事故は今日的な課題と思う。車と異なり、保険に入っている人も少ないと思う。ただし、公民館の事業に結びつけるのはこれも難しい課題と思う。AEDは館内に設置されていることもあり、そのことを知ってもらうという趣旨で事業化し、毎年行う予定だ。自転車の安全対策に限らず、何を公民館事業に据えるかは、1つ1つ吟味していきたい。

○委員：

学校では、道交法の改正に伴う学習会を実施する。田無警察の協力を得て、地域の方に対する安全指導を田無一中、二中、保谷中の3校が実施するので、ぜひ参加してほしい。

○委員：

市民企画事業の名称に変更して4年目に入ったものと思う。現行の要綱だが、懇談会や報告会で上がっている意見を基にして、要綱の見直しを行ってはどうなのか。

○館長：

この間、利用する団体からはさまざまな意見をもらっているが、もう少し具体的な提案がほしいと思う。明らかな不備であるのなら改定は当然のことであるが、利用団体の負担感という理由だけだ

と、今すぐ改正をするという根拠に薄いと感じている。

○委員：

お互い、金も時間も有効に使いたいということだ。懇談会も報告会も違いが分からないような、何のための会なのか理解に苦むようなものにならないよう工夫してほしい。まだまだ市民企画事業を知らない人が一杯いる。より多くの人々が携わってほしい。要綱改正を検討するような意見や提案を求めてほしい。

○館長：

確かに新しい団体の利用が少ない制度になってしまっている。制度を理解しているから、懇談会や報告会への出席に負担感が募るのかと思うが、提案のように、新しく制度を使おうとする団体にすれば、先輩の話しが聞けてありがたく思うのではないか。

○委員：

もっと新しい団体が制度を使えるようにPRする努力をしてほしい。

○館長：

一定のPRはしている。ただ、予算の枠もあり、新しい団体がどんどん増えると、利用できなくなる団体も出るということになる。うれしい悲鳴ではある。

○委員：

個人的には、2倍にも3倍にもなった方がいいと思っている。

○職員：

報告会等に関わってきたが、新しい制度になった2年目からルールの変更を求められ、毎回同じ要望が出てくるが、初めてわずかな期間での要綱の変更は難しい。かえって混乱すると思う。

○委員：

説明会に出席している人は、課題・問題点は理解されている。問題点を検討すべきだし、公運審でも検討する必要があると思う。この場で話し合してほしい。

○会長：

必要に応じて議題にすべきことと思うので、本日は他の意見も聞きたい。

○委員：

各館の考えはよく理解できた。しかし、それを誰が、どうやって知るのが問題だ。こうした事項を知らせる方法を講ずるべきだ。各館の掲示板で知らせるとか、工夫はできるか。懇談会の出席率から考えても、そこでの発表だけでは心もとないと思う。意識的に知らせるということで、もしかしたら生の声が得られるチャンスが開けることも考えられる。

このことは今さら戻すことはできないことであるのは理解しているが、各館の事情を汲んだ事業計画の審議ということになると1つしかない公運審では議論が難しいし、深まらない。各館の報告には持ち味が出ていると思うが、分館ごとに積極的に意見が出せる場を持ってはどうなのか。

個別の事業だが、親子対象事業に一工夫がほしいと感じた。表を見る限りでは、長期的に行うものは見当たらない。夏休みに陶芸をしておしまい、というだけでなく、1年かけて知識を得ることや音楽を学ぶということでも良いと思う、継続的に行う内容がほしいし、より親子の絆も深まると思う。

○会長：

この事業計画は、どの範囲まで伝えているのか。

○職員：

各館、3月の利用者懇談会で報告している。3月は出席率が高いが、指摘の点については努力事項と思う。公民館だよりの掲載も必要と感じながら、4月5月は谷戸と田無の「まつり」の記事に押されてしまい、つい未掲載になってしまっている。

○委員：

親子の絆を深めるための講座とはどういう事項を想定しての発言か。

○委員：

1回限りの内容よりも、年間とおした方がより絆も深まると感じた。

○職員：

継続という問いであるが、必ずしも通年行うということばかりでないと感じている。その内容は単発でも、異なる内容を複数回行うというものもあるし、単年度で考える1回限りでも、複数年にわたって企画しているものもあり、そうした考えのもとで企画していることは理解してほしい。

○委員：

田無公には、親子対象がないが、なぜか。

○職員：

各表のつくりと親子対象とくくった基準によるところがある。青少年事業は田無公にもあり、その中で親子を意識した内容のものもあるし、広義には保育事業も親子対象と捉えることもできる。また、制約を受けやすい人に対する事業の中には、親子対象事業というくくりには入っていないけれども、親子で交わる内容も含まれていたりする。

○委員：

親子対象事業について、大切な提案があったと思うが、このまま問題提起というだけで終わってしまっているのか。

○職員：

事業方針以降の頁については、個別の館の事業計画になるが、その計画にまで踏み込んで議論するには、現状の計画書の内容には具体性が乏しい。極論をすると、講師との都合で実施時期や内容も変化することもある。先月も話したように、公運審には6館の進むべき方針を審議してほしい。この議決に従い、毎月の事業計画を事業担当者が企画を組むことになる。その基礎を固めてほしい。逆に、ここで決まった事業方針や館の方針に沿わない事業が提起されてきたら、批判の対象ということだと思う。

先ほどの親子対象に限らず、継続的であり、立地する地域に根ざした事業を展開することは、公民館の本来目的であり、委員の発言は、それを親子事業になぞらえて問題提起したものと私は解釈できた。そのとおりだと思うが、例えば、この場でそのことを理解できたと答えたからと言っても、今回の各館の個別事業を直ぐに変更することにまではつながらない。2011年度の計画を策定する際の参考ということかと思う。

○委員：

今日も、来月も、各館の事業については審議できないということになるのか。

○職員：

触れてもらっては困るという意味ではないが、見て分かるとおりに、まだ素案の状態だし、こちらが

示した事業方針に沿った事業の提示をしているに過ぎない。ここに提示している個別の事業単位の審議は想定していない。その前の、方針を固めてほしいのが、希望だ。

○職員：

どこの館でも、年間の事業方針に沿って、またその年度の市民の動向に沿って事業計画書を起案する。その事は理解してほしい。この段階で、余り細かい内容に及んでしまうと、答えに窮することもある。

○会長：

長期的に計画を鳥瞰すると、いろいろな見方もあると思う。事業が終わった後にサークル化をすることで継続的な学習につなげるという手法も考えられる。

職員側は、今日の意見を踏まえて、調整する必要がある部分は手直ししてほしい。

○職員：

この場では出なかった不備があったりした場合には、3月初旬までに申出てほしい。それらも含めて再度職員会議をもって、3月定例会に臨みたい。

○委員：

先月の会議で意見のあった新規事業に対する表記については検討したのか。

○職員：

もちろん検討している。ただ、まだ結論が出ていないので、この点も3月に回答したい。

○会長：

この程度にとどめ、継続審議とした。

(4) 事務連絡及び情報交換
(特になし。)

(5) 次回の日程について

3月24日（水曜日） 18時30分

於：田無公民館 第2学習室

○会長：

他に意見がなければ、閉会とする。